明治廿九年十一月五日印刷
明治廿九年十一月六日發行

婦人衛生雜誌

第八十四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾四號
目次

講演
●小兒衛生に關する歷史　醫學士　三島通良君
衛生叢談
●赤痢の慘狀
●釜山港及福岡縣の天然痘
●コレラに對しての告示
●虎列剌新患者
●寄送雜誌
●大日本婦人衛生會記事
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾三號
目次

講演
●小兒の衛生に就て　醫學博士　弘田長君
衛生叢談
●洪水後衛生法の通達
●水災後衛生上の注意
●傳染病患者の職業別
●英佛死亡者の比較
●鯛の中毒
●赤痢の害毒
●同個人的豫防法
●本年の死亡者
●神奈川縣下の赤痢
●長野縣下の赤痢
●府下赤痢患者
●埼玉縣下の赤痢病
●靜岡縣の赤痢病
●廣告數件

婦人衛生雜誌第八拾四號（明治廿九年十一月六日發行）

講演

◎小兒衛生に關する歷史（十月十日於大日本婦人衛生會）

醫學士　三島通良君　演說

總裁殿下並に御來會の會員諸子。今日は總會でございますのに生憎雨天なるにも拘らず、御來會になりましたのは、誠に御殊勝のことでございます、そこで私が今日御話を申上げることになりましたのは、私に取ッて此上ない名譽のことゝ存じまして、謹んで之を謝します。

此會に於きましては、是れ迄諸先生方の數々の御話もございましたので、隨分御話はし盡されてございます、私も何か御心得になることをと思ひましたが、折角良い材料も見當りませぬので、今日は小兒衛生に關する歷史を少し御話申しませうと思ひます。餘り面白いことではございませぬが、兎に角此小兒に對する衛生と云ふことが歐羅巴で今日迄にどう云ふ道筋を傳はッて發達して參ッたかと云ふことは聊か御參考にならうかと存じまして其事を少し申上げたいと存じます。

古來の歷史を繙いて見ますと、衛生のことは、隨分數千年前からしてあッた事柄でございまして、殊に古代に於て開明の國と稱せられたところの埃及、イスラエル或は印度國に於ては、其當時からして、最早大人及小兒に對する衛生法と云ふものがあッたのは事實でございます。併し何れ物事

の起りますのは、入用から生して、始めて起るものでございます、印度イスラエル埃及あたりの國は、熱帶の國でありますから、勢ひ其時分から色々病氣もございましたらうし、自然と人が衛生のことに氣を附けなければならぬ必要があッて、自から衛生と云ふことが出來たのであらうと思ひますが、兎に角此時分に、既に「食物に關する法令」を定めたことがある位でございます。それを以て見ても、此邊の人民が、衛生のことに熱心であッたと云ふことは、今日から想像することが出來ます。尙は彼等は「乳の撿査」を行ひましたことがあります、それから其時分から矢張小兒に對しては「生母——生み親の乳が最も良い」と云ふことを明かにして居りました、若し其れが往けぬ時には、之に換ゆるに「獸の乳」を以てし、それに尙は穀物の糞汁を加へて哺ませると云ふことにしてありました。小兒が少し成長した者には、段々固まッた物を食べさせると云ふことは、矢張其時分から氣が附ひて居りました、又小兒の居る部屋、或は寢室其ほか外に出た時分にはどうする、玩具はどう云ふ物を使ふ、遊び方はどう云ふ風にすると云ふことゝ迄も、一々研究を致しまして、其上のみならず此頃から、既に「天然痘に對する豫防」といふものを工風を致しまして、今日で云ふと「穿刺種痘法」——イノクラチオンと云ふ種痘の仕方を、此頃巳に考へ付て始めて居ります、此種痘法は其後歐羅巴に傳はりまして、既に此十九世紀の前に至る迄は歐羅巴諸國に此法が行はれて居りました、古代に於ても此位衛生に注意を致したものでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は日本の古い歴史に精しくございませぬで、本邦に於ては古代どう云ふ風にあつたといふ、精しいことを調べる事は出來ませぬが、兎に角本邦に於ても隨分神代時分から始めて、人皇に移る時分に於ても余程衛生のことに注意して居ッたと云ふことは想像が出來るやうに思ひます。

今一二の例を擧げて申しますと我國は古へからして清淨と云ふことを非常に尊ふ國でございます、總て物を清める、穢れを秡ふと云ふことには、余程力を盡して居ッたやうに見えます。神代の時分から穢れを秡ふと云ふことに付ては、色々の方法がござりました、其中殊に今日に於ても感心しますのは、海の水、「即ち潮水」と云ふものは、總ての不潔物を清潔にする性質を有ッて居る、斯云ふ考を有ッて居ッたものであります、總て穢れた物は海の水で洗ひさへすれば奇麗になると信して、之を行ふて居りました、其名殘が今日迄も遺ッて居て穢れたものに觸れた時は潮を以て清める、海の潮を得られぬ場合には潮から採ッた固形体になッた塩を振ッて物を清めて居ります。夫れからもう一つは、今日の消毒法でありまして、最も完然の消毒法は何であるかと云ふも、火を以て燒いて仕舞ふより外にない、此より上の消毒法はないのです。それで古代に於ても、穢れたものは、總て火を附けて燒くと云ふことでありました、其れが今日に遺つて居りまして、物に切火をかけますのです。其外清潔を尊ぶ爲めに總て白い物を以て清いと致します、乃ち神前に出る時には先づ白衣を着ることになつて居る、夫れから神前に供へる所の器物も、矢張白木の机、白木で造つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たものは少しの穢れでも分ると云ふところで之を用ゐます。又一方から歷史上考へべきことでございますが、土器のやうなもの迄も、其時分は今日の樣な釉藥を施した磁器はないのですが、其名殘が遺つて居て、神の前又は祝儀などは土器を以てする、土器は一々壞はして捨てゝも差支ないものです。其外澤山ありませうが先つ此れほとに致しおきます。

此より歐羅巴の方に戻りまして、極く昔開化國と云はれた所の希臘、此希臘の人民は、非常に衛生のことに注意をした者であると云ふことは、古代の歷史の中に著しいことであります、殊に希臘の中でも「スパルタ」と云ふ所があるが、其「スパルタ」人の如きは小兒を育てるのに隨分極端ではありますが、生れたての小兒が弱さうだと見ると殺して仕舞ひました、弱い兒を活して大きくしなしたところで、役に立たないと云ふて殺して仕舞つた位であります、是等は今日から考へて見ますと、甚だ殘酷な仕方でございますが、「スパルタ」人の考では弱い者は活かして置くよりは最初から殺して仕舞つた方が宜いと、信じたのであります今を以て古を測る譯には參りませぬ、小兒が七年になりますと、親の手を離れて、政府が之を引取つて總て政府の費用で教育をします、朝から晩まて躰操をやらせた、其躰操の目的とするところは凡そ人間の身体をして「總ての困難に打ち勝ち、それから痛苦を感しないやうにする、」斯れが目的でありました、此仕方は「スパルタ」では男子にはかり仕向けれのではありませぬ、矢張女子も丈夫でなければならぬと云ふ所で、頻に女子にも躰育

を致させました。

然らば希臘の國は何處でも「スパルタ」のやうな風にやッて居ッたかと云ふと、さうでもございませぬ、「アデン」と云ふ所がございます、其邊の人の考は又「スパルタ」の人と違ひましてまつ先きに「美」と云ふことの感念を頭に持ッて、夫れに重きを置きまして、それで人は力量、容儀、佳美、温雅、此四ッの事柄を備へた者が本統の人物である斯云ふものを仕立てんために殊のほか躰操を奬勵しました、それで此頃の教育の目的は身體の方ばかり、かやうに致さうと云ふではなく精神も同様に善美でなければならぬと云ふ所からして、科學圖畫音樂と云ふやうなものを教授しまして、それで身と心と兩方共に美しい立派な人を作ると云ふことを始めました、是が已に凡そ今日の教育に云ふところの心身兩育の基礎をなしました、のででございます。此時分希臘の學者が『健心は健身に宿る』(Mens sana in corporae sano)と云ふ金言を唱ねました、身體が健康でなければ、心が確かりして居るものでないと云ふことを申しました、そこで「善と美」と斯う云ふ二ッの事柄が一ッになッて仕舞はなければ本統のものでないとした、希臘人は此金言を事實に收得しやうと思ふたのですそれで希臘には善美と云ふ意味を一ッに云ひ顯はした語があッた位であります。

小兒は六年までは婦人の手で育てますが七年になりますと、始めて玆に眞誠の教育と云ふものを施こすことになります。其時分に、男兒は家に置きませぬ、必す他人の手で育てるが、然し女の子はやはり母の側に置いて育てる斯う云ふ育て方をし

小兒衛生に關する歴史

て居りました其外に兒童の爲めには遊園を設け、少年及男子の爲めには躰操場を設けまして、其躰操場の中には大きな池を設けまして、さうして泳ぎをしたり、其外浴場を造ッて入浴をさせたり、或は觝力、槍術、飛ッこ、球投と云ふやうな遊びを始めまして、其等の道具は一々備へてありました、男子は總て其處に來て各好むところの遊戲を爲ますし又少年でありますと、其處に敎師が附いて居ッて之を敎育することになッて居りました、此勢ひでありましたから、遊びごとも餘程盛んでありまして、其中にも球遊びが大變に流行しまして、其遊びの如きものは男ばかりではありませぬ、婦人、少女も入交ッて、共に愉快に遊ひを致しました。此等の體育法は各勝手にさせてあッたかと云ふと、さうではない矢張遊び場所にも監督致す者が附いて居ッて、其人の身體と性質とに依て遊びの善い惡いなどを敎へます、さうして其目的としたところは、矢張「身躰の爲めには力量それから四肢の强壯其他温雅と機敏」此四ッを併せ備へるやうに仕立てゝ參りました、それで、をとなしいことばかりやッて居るかと云ふとさうではない、隨分手荒なことをする、即ち闘爭をさせまして、其れで勇氣と決斷とを養ひ、それから危害—危いことのあッた時分にそれに對する決心等を養成させる爲めに闘ひを稽古させました。さうして運動をする場所には、極く身体の大きい、偉大なる勇士の像であるとか、或は貴族、將軍、其他觝力に勝をとッた力士などの像を掲げ、それから師範役には熟練した先生が居り、又精神の方の敎育の爲めには、此善美を眞誠と云ふ心を養成す

ることを務めて居りました、之を養成する爲めには哲學者も其處に列して居て、さうして少年子弟を教育しました。

其中に「ヒポクラテス」と云ふ、恰度日本や支那で云ふ神農のやうな、西洋の醫者の元祖とも云ふべき有名の醫者が希臘にございまして、其人も小兒の養ひ方それから小兒の病氣の治し方と云ふやうなことを教へました。所が醫者ばかりではありませぬ、其時分希臘の學者で有名なる「ソクラテス」「プラトー」「アリストテレス」なども矢張躰操場にやッて來まして、さうして少年及男子の智力の發揚に就て非常に骨を折りました、殊に此中の「プラトー」と云ふ學者は『人と云ふ者は心と身と平均に發達した者でなければ、決して人と云へないそれであるからして先づ小兒を教育するには躰操と云ふものが一番大事なことである、國と云ふものを保護して行く上に於ては政府は之を奬勵しなければならぬ、國家は小兒の爲めに、必ず遊戯場を備付て、置かなければならぬ、ものである、それから男の子ばかりでない、女の子も矢張男の子同樣に身躰を丈夫にしなければならぬ、いやそればかりではない召使の小兒に至る迄も矢張丈夫にしなければならぬ、と云ふのは、國と云ふものを保ッて行くには、決して中等以上の人ばかりで保てるものでない、却て下等の人民が大切であるそれであるから下等の者の小兒の育て方は、政府が注意して保護してやらなければならぬ、國の富を爲すのは、總て下等の人民の强弱如何にある、之を矢張教へてやらなければならぬ、斯云ふ說を唱へました。又「プラトー」が申すには、『小兒は

五ッ迄は遊ばせて置き、七ッになるまでは、稽古に行ッても唯、見て居ることゝ、聞いて居ることゝを許したゞそして七ッ過ぎましてから始めて躰操を一ッの課業として授けるやうにしなければならぬ、さうして段々大きくなッたならば、そこに至ッて始めて科學、音學を授け、それから躰操の方も年を取るに從ッて段々烈しい運動をさせると云ふことにしなければならぬ』此が「プラトー」の說であります。其れから同時に矢張「アリストテレス」と云ふ學者も「プラトー」の說に同意を致しまして『小兒の爲めには遊戲と躰操と云ふものを、一番奬勵しなければならぬものである、極く眞じめな課業を授けると云ふことは、後になりてからでなくてはならぬ、若し課業を授けることにしたならば、遊戲、休息此二ッのものを其間に挾んでさうして課業の時に疲れた心を、遊戲或は休息の爲めに恢復させてそれから次の課業の時分には、其疲れが癒ッた所の、新しい精神を以て之に就かなければならぬ、小兒の爲めには稽古、遊び、休息と云ふ風にそれを互ひ違ひに用ゐねばならぬ』斯う云ふ說でありました。誠に今日から考へて見ましても、やり方は實に完全したものでありまして、矢張今日の敎育も、此等が本になッて居ります、敎育と云ふものを二ッに分け、即ち心育と身育との二ッに分け、心育と云ふ方を智育德育の二ッに分け、身育と云ふ方は今日では躰育と唱へますが、之を兩方同じやうにやッて、身躰も心も、どちらも、上がり下がりのないやうにして、育てゝ來て、始めて眞誠の人間が出來るのであります、斯う云ふことは今日疑ひなき說でありますす

が、此等の說は既に千年の昔に於て「プラトー」「アリストテレス」の唱へて居ッた所であります。若し此勢を以て、其時の敎育が今日まで進んで參りましたなれば、左程心配のことはなかッたのでございますが、希臘の國も不幸のことがございまして、どう／＼國勢か段々衰へることにあッて參りまして、其爲めに此敎育の仕方も之に從ッて衰へて遂に前の目的を充分に達するまでに至らずに終ッて仕舞ッたやうな次第でございます然るに此敎育法は段々移り行き次に盛なりし羅馬の國へ參ッた。さて羅馬の敎育法は前にはどう云ふことをして居ッたかと云ふと、小兒は總て母の膝下で育てる、それから稍々成長して後は女敎師を雇ッて、それに遊戲と課業とを授けさせると云ふことでありました、ところか羅馬の國は非常な盛大な國にあッて、其盛んなことゝ云ふものは、天下無比の有樣であッたからして、自然に驕奢に長じて參りまして、其結果として、母親が自分で哺育することを厭ふやうになりまして乳母を雇ふと云ふことを始めました、而して乳母に小兒の育で方を任した、此は日本でも隨分古くから乳母と云ふものがあッて日本記にも、玉依姫か鵜羽葺不合尊の乳母となり、又東鑑に、賴朝の乳母があッて、摩々と號したと云ふことを書いてあります位ですから、矢張二千年以上の昔からあッたもので、今日でも盛に行はれて居ります。――始めには小兒に乳を哺ませ、後には之をばあやと稱して敎育を掌るやうにあッたのですが、此は惡風でありますから、速かに改めねばならぬ事と存じます。さて羅馬の敎育の仕方は多く家庭敎育の仕方

であッて、希臘のやうな風に、公立の体操所があるのでは無かッたのです、専ら家でばかり育てゝ居りました併し其時分でも矢張心身――心と身躰とは兩方共に丈夫でなければ往けぬと云ふ趣旨は決して諭らなかつた、男の子は力量と氣力此二つを養ひ、それから長じて參りまるすと、武器を取つて闘ひを敎へました、それでありますから、段々確かりして丈夫になつて參ります、總て此柔弱に流れると云ふことを、大變に忌みまして、從つて精神も確固たらしむるやうにさせることを、務めて居りました。女の子はどうして居つたかと云ふと、此時分は矢張母の手許で、極く簡單に實用的に育てゝ居つた、紡績、機織、又は刺繍、音樂、舞踏と云ふやうなものを敎へて、學校には、やらなかつた併し自然大きくなつて來ると云ふと、後には男女共に學校に遣ることゝしましたけれども有名なる羅馬の國も、段々國勢が衰へてさうして此少年の敎育も自然と柔弱に流れて從つて父兄の監督も、矢張等閑になつて參つたものでありますから、遂に此敎育法も續かずに終つたのであります。

其後「クラウジウス、ガレヌス」と云ふ人が出ました、此は紀元後百三十一年に生れた人でございます、此人は「ヒポクラテス」の後に嗣いで、有名な醫者でありました此人も矢張小兒の衛生、それから小兒の食養と云ふやうなものに附て、色々研究をした事蹟を遺して居ります、殊に食物、衣服、入浴、皮膚の養生、躰操と云ふやうなものを研究して一生懸命に此事をさせやうと思つて人に勸めた、其外此人は、尚ほ道德上に於ける、小兒の心

意の發育と云ふことを、大變大事に思ひまして『小供の心と云ふものは、大事なものであるから、小兒の中に能く正しく育てなければならぬ、恰度心も身躰と同じである、身躰も心も、矢張小兒の中が大事である』と云ふことを說きました。

其後に至つて「アテチウス」と云ふ人が出ました、此は紀元後百七十年に生れた人でございます、此人も又小兒の衛生のことに付て、極めて剴切なる說を立てゝ小兒の養ひ方、入浴、躰操、睡眠、それから教授法と云ふやうなことを研究しました。其說に云ふ『凡そ小兒と云ふものは、七年になつて始めて學に就けるものである、それから學業と躰育とを共に行つて往くものであッて、さうして此二ッを怠ッてはならぬ、若し小兒に規則立ッた課業を授けやうとするならば、成べく漸々にやッて往かなければならぬ、極くやさしい所からして、むづかしい所に這入ると云ふ、仕方でなければならぬ、それから課業を授けるにも、決して長い時間、一ッ事のみをさせてはならぬ、若し同じことをさせやうとするならは、間に遊戯とか、躰操とか云ふものを混へて、さうして精神の疲れたのを癒した後で、なければさせてはならぬ、斯云ふ風にして即ち精神が、度はづれに疲れることを防いでさうして段々發達させて往き、十二年以後にありて、始めて本式の學問を授けることにする、併ながら矢張遊戯と躰操とを怠ッてはならぬ』斯云ふ說を立てました。

それから、今日醫學の最も隆盛を極めて居る所の獨逸であります。獨逸ではどう云ふ風にして居た

かと云ふに、獨逸では矢張日本と仝じに、昔は小兒が生れますと、母親の乳で育てる少し大きくなッて參りますと、矢張家で敎育する、家庭敎育であります、さうして小兒には水練とか乘馬とか、觝力とか、其外軍事的の稽古を頻りにさせて。活潑に育てることを主として居りました。女の子は家に置きまして他日嫁に行ッた時分に、役に立ッやうに、平生母親の手助けを致すと云ふのが主でありました。それからもう一ッ面白いことは、獨逸國の古いところの風俗に、小兒が生れると產湯の代りに、それを冷水の中に入れる、此は「ガレヌス」の說に從ふたのでありまして、其小兒の運試をして、水の爲めに弱はるやうな小兒では役に立たない、どうであるかと云ふことを試驗しました、是は一寸聞きますと、慘酷なやうに聞えますが、私が見た書物に日本でも或る土地にさう云ふ風俗がありまして、小兒が生れると鎭守樣の井戸の水を汲んで、冷水なりに產湯を遣はせる、さうすると小兒が丈夫に育つと云ふて、するところがあるさうですが、此は丈夫に育てやうと云ふ趣旨でありまして。獨逸のとは聊か違ひますやうです、乃ち獨逸では始めに小兒の强弱を試めすです。越後の國では、小兒が生れると柱にうちッけて見て、脊骨が曲がッたのは角兵衛獅子にして、曲らないのは米舂きにすると云ふことを申しますが、是は惡口でございませう。

それから降ッて紀元後一千年頃にあります、此時分迄と云ふものは、小兒衛生も別に是ぞと云ふ進步も致しませぬでありましたが、此頃になッて亞刺比亞の國に「ラッエス、アウヰッエンナ」と云ふ醫者

があッて、其人が食物と療病の事に付て、餘程優れた說を唱へました、其外にも小兒と大人とに對する衛生の意見を公にしました、此の人があッたぎりて、此時分からして中古に至る迄は衛生が一向進みませぬでした

千五百年代の央ばに至て「フマニスト」と名付くる所の敎育家の一派が興りました、此學派では躰操と云ふものを以て、少年の心身兩育の唯一の材料と致しまして、殊に躰操と云ふものは敎育上忽せにすべからざるものである、と云ふことを唱へ當時此說を眞ッ先きに採用して、さうして敎育を致しましたのが、伊太利の國でありまして、其中にも殊に「マウトア」「ウルビノ」と云ふ二ケ所でありました、此處に敎育所を建てまして、學問の外に躰操、擊劍、觝力、騎馬、弓術、打球と云ふやうなものを、稽古させました、さうして膽力を養成することを勉めました、此敎育の仕方が、伊太利から瑞西に移ッて、それから獨逸の方に這入ッて參りました、其中此「フマニスト」派の中に「カメラリウス」と云ふ人がありまして、此人は自身で學校に來て、躰操をさせたり、話を爲したりして小兒を敎育てました、それから町の若い者も、矢張躰育をしなければならぬと云ふ所で、町の中にあちらこちらに体育所を設けまして、稽古をさせました、殊に祭でもございますと、あちらでは觝力、こちらでは飛ッこなどを爲し互に樂んで居りました。そこで獨逸の「ニユルンベルヒ」といふ所がありますが、其所の市會議員は此目的の爲めに躰育所を買ッて、其使用に充てるやうに致しました、此位躰育が開けて居りましたが、未だ公立

の体育所と云ふものはありませなんだ、公立の躰育所を設け始めたのは「ケルン」府でありました。

それから千五百年代の末にあッて醫學もます／＼進んで來ましたのに、從ッて衛生のことも進んで參りました、併ながら其説く所はどうかといへば、多くは亞刺比亞の醫者のいふた事柄を、只續けて來たに過ぎない、所が千六百年代に至りて、僅に「ウェルッ」といふ人がございました、此人が已の經驗に基いて、小兒の食物に關する本を拵へた。それから又「フマニスト」派の「サドレット」といふ人が「カメラリウス」の學統を繼いで躰育と衛生とのことを頻に奬勵しました。

それから千七百年代にあッて、此時分には不幸にして、學校における兒童の躰育といふものが、殆んど停止の有樣にあッて居ッた、醫者は頻に之を奬勵したが、とんと体育が盛んになりませぬ、そこで仕方がないから、方向を家庭の方に轉して、其時分から通俗的に書いた、小兒の養い方の書物を作りました、即ち小兒教養法といふ書物が出來て、例を擧けて申しますると、私の書きました、「ねゝのつとめ」といふ如き本か出來ました。

それから今度は千八百年代になりますと、始めて衛生學とか生理學と云ふやうな學問が、段々進んで來まして、從ッて公衆衛生と云ふやうなものも出來て參りました。此は前にもどなたか御話になッたことゝ存じますが、衛生を二ッに分けまして即ち「公衆衛生」「各自衛生」と云ひます、又獨逸では一方を「國家的」一方を「個人的衛生」と唱へて、此二ッを區別して居ります、其中公衆衛生のこと

は千八百年代に始めて盛んにありました、その頃より始めて、今日漸くやかましくなッた「學校衛生」と云ふものも出來て來ました、其中に「ヨハン、ペーテル、フランク」と云ふ人が出ましたが。此人は殊に衛生のことを研究をして、澤山書物を著した人であります。

何事も變事があると進歩するもので學問も亦同じてありますが尚は二十七八年の役があッたゝめに教育、殖産、運輸、交通が盛んになッた如く、醫學も十八世紀の中に於て、非常な變動を來すべき事柄が生した、それは何であるかと云ふと種痘の發明であります。此は一寸初めに御話を申しましたが、古昔穿刺種痘法「イノクラチヲン」と云ふ種痘の仕方があつたのです、此は天然痘に罹つた者の痂を採つて、其痂を外の小兒に移して、種痘をするのです、此やり方をして居りました、所が其時分今の土耳其の「コンスタンチノープル」に居りました、英國の特命全權公使に「マンテグユー」と云ふ人があつて、其人の奥さんが此事を傳へ聞いて、それは余程珍らしい、若しそれが効能があるならば、大變人の爲めに利益のことであるといふて、早速自分の小兒に種痘させました、中々其位確かりした奥さんです、公益の爲に自分の小兒を試驗の材料にするなどは、所が大變善い結果でありましたから、そこで英國に歸つて其事を國王「チョーヂ」第一世に御話を申上ました然るに國王も大層御喜びになつて、さういふ善いことであるなれば、早速試めして見やうと云ふて、先づ皇子に其の、種痘法を行はせました、此も好結果を得ました、そこで此やり方が大變に

信用を得て、始めて英國に擴ッた、英吉利から歐羅巴大陸、瑞典、伊太利あたりに廣まッたのです其後間もなく英吉利の大地主で「エスチー」といふ人が、牛に出來た疱瘡を家内と小兒とに種ゑたことがある、其中英吉利に「エドワード、チエンナー」といふ人がございまして、—此間上野で百年紀念祭をやりましたチエンナーであります、此人が牛痘のことを研究して、遂に千七百九十六年五月十三日に、牛痘接種（今日の種痘）といふもの、發明を公けにして許可になり、始めは殆ど殺されかけんとなしたにも拘はらずやッて參りましたが玆に至て此法が世に信用を得るやうにあッて千七百九十九年の頃には倫敦に痘苗院が建ちまして、其處で僅の間に、十万からの人に種痘を施しました、それで此方法を施した效能が、大變に好かッたので、段々種痘といふものが世界に擴ッて、遂に今日の盛大あるに至たのであります。

それで、斯いふやうな歴史を以て、小兒の衛生か今日迄進んで來ましたので、中々容易な骨折や年月で、今日のやうな盛んな有樣に至たのではございませぬ、之を考へて見ましても、隨分昔からの人が小兒の衛生に苦勞をして居ッたといふことは明かな事實であります。之につけても今人か之を忽諸にしてはなりませぬ。何少し御話申したいこともございますが、大分歴史の方か長くなりましたから、御退屈と存しまして、余は又折のあッた時に申しますことに致しませう。謹みて總裁殿下幷に會員諸子の健康を祝す

衛生叢談

●赤痢の慘狀

赤痢病の恐るべきは實に虎列剌の比にあらず其蔓延の區域至て廣く今日に於ては全國至る處赤痢患者を出さゝる處なきに至る八月中全國の赤痢患者は合計二万四千九百四十三名なりしが今内務省衛生局に於て聞き合せたるに初發より九月三十日迄の患者數は六万一千百九十九人にして内死亡一万三千七百人にして又九月十六日より仝二十日に至る五日間の全國患者數は二千三百三十四人にして死亡數九百〇六人にして初發より九月十五日までの總數患者は七万二千百六十六人死亡一万七千二百〇八人の大多數に達せりといふ當局者の直話によれば關西九州四國に於て赤痢の大流行あるは多くは洪水の翌年ある由なれば此際清潔法は嚴重に施行せさるべからずといふ

●釜山港及福岡縣の天然痘

昨今釜山港にては天然痘流行し目今避病院を開き且共立病院にては種痘を始め掛員は專ら豫防撲滅に盡力中とのことなれども朝鮮内地には種々の傳染病蔓延するも釜山にては直接に之れと交通せることなれば其侵入は到底免れずといふ然るに茲に又驚くべきは十月七日頃より福岡縣の門司港に痘瘡患者の發生せしことあり此頃同港に於ては九州の石炭を輸出する爲めに人夫は五千人程他所より入り込み居るよしなるが此等の持ち來たしたるも

のか十月七日より同三十日迄の患者は百〇九人に達し尚蔓延の兆あれば流行地との交通は周匝の注意を要すと云々と內務衛生局員は話されたり

◉虎列刺に對しての告示

府下にコレラ蔓延の兆あるに付警視總監東京府知事は連署にて過日左の告示を發せられ各區長よりは夫々人民に達せられたり

コレラ病豫防上に關する各自の注意に付ては本年四月及六月告示の旨も有之候處即今に至り頓に該病患者を增發し病勢極めて猛烈蔓延の兆あり且つ冬季に於ても同病流行の實例少なからず依て此際攝生に注意し各自豫防を嚴にすべし

◉虎列刺新患者

秋期に至り府下に虎列刺病蔓延の兆ありて去月五日より同三十日迄の間の府下の虎列刺患者總數は合計百〇五人の多きに達し廿九日より同三十日正午迄の新患者は神田區男三人女一人淺草區男三人芝區男一人深川區一人日本橋區男一人小石川區男二人下谷區女一人四谷區男一人本所區女一人にして內三名は即死他は送療治療中なりといふ是を見ても家屋の周圍にある濕氣深き處等には石灰を撒布し溝渠を浚らひ總て品物は日光に曝らし飲料水に注意し生物は勿論煮沸てたる者の外は決して食ふことなく且夜中寢冷へせざる樣になし且つ虎列刺病發生の場所には近よらぬ樣豫防緊要なりとぞ

大日本婦人衞生會記事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●十月總會

十月十日第二土曜日午後一時より麴町內山下町華族會館に於て總集會を開きたり

當日本會總裁　小松宮妃賴子殿下には午後二時御臨場遊ばされたり會長以下役員一同玄關へ出迎會長御先導暫時設けの席にて御小憩役員へ拜謁仰せ付けられ次に妃殿下には高崎別當及仁禮會長上野幾子等の御先導にて會場へ御臨場遊ばされたり此際一同敬禮を行ふ次に高崎別當には殿下の優渥なる左の令詞を讀み上げらる一同起立拜聽す

令　詞

衛生のゆるがせにすべからざるはいまさらいふまでもなきことにて婦人は子をそだつる道をはじめ病人のみとりするわざなど心得おかでかなはざることいと多しちかごろこの事に心をそゝぐものやう／＼多くなりもてきぬるはこの會あづかりて力ありといふべし賴子こたび此會の總裁におされて今日こゝに臨みおの／＼がたとしたしく相見ることを得るはよろこばしき限りにこそねがはくは會員の人々心をあはせ力をつくしいよ／＼この會の趣旨をおしひろめ世の婦人をしてます／＼衛生のおもんずべき事をしらしめられんことを

明治二十九年十月十日

次に濱尾副會長には仁禮會長の答辭を代讀す

答　辭

本日大日本婦人衛生會の總會をひらくにわたり總裁　小松宮妃殿下の御臨場をかたじけなうし優渥なる令詞をたまふ誠に本會の光榮にして一同感佩の至りに堪へず今後會員相共にます／＼つとめはげみて斯のみちの爲に盡さん事を期す

謹みて奉答し併せて殿下の御健康を祈る

右終り一同敬禮を行ひ次に醫學士三島通良君には小兒衛生に關する事に付廣く泰西古今に例を取て演說せられ續いて醫學博士緒方正規君には赤痢病に就て其病毒の猛烈なると及其注意等を演說せられ右終りて殿下には別室に於て暫時御休憩御退出仰せ出されたり會長役員以下一同玄關にての奉送は奉迎の時に同じ當日折悪しく雨天なるにも拘はらず來會者五十餘名の多きに達せり本會半年度の事務及會計報告等は一々掲示して會員に報し茶菓の接待ありて全く散會せしは午後四時半頃なりき

◉寄送雜誌

大日本私立衛生雜誌　第百六十號　大日本私立衛生會
細菌學雜誌　拾號拾一號　會員吉澤まさ子
埼玉衛生雜誌　第百四十一號　埼玉衛生會
三重衛生雜誌　三重衛生會
產婦の保養　全一冊　藤澤正光君
藥石新報　六部　藥石新報社
衛生寶鑑　第二十二號　三河滋善堂發行所
中外藥報　一號二號　中外藥報社
越佐教育會雜誌　越佐教育雜誌社

廣告

自明治廿九年三月至仝年八月

大日本婦人衛生會收支決算報告

收入之部

一金四百〇參圓六拾壹錢七厘

内譯

金參百八拾八圓九拾五錢　會費集高
金九圓六拾六錢七厘　前年度越高
金五圓　寄附金

支出之部

一金四百〇貳圓拾錢五厘

內譯

金百拾六圓〇五錢　雜誌印刷料
金五圓八拾五錢　諸印刷料
金七圓五拾錢　速記料
金參圓六拾錢　切扱通信料
金四拾八圓　雜誌編輯事務給料
金參圓〇八錢　器具料
金參圓拾壹錢五厘　筆墨紙料
金參圓八拾錢　會場費
金八圓七拾八錢　総會入費
金六拾參圓四拾錢　懇親會入費
金貳拾八圓〇五錢　會費雜誌通知集配手當
金拾四圓參拾四錢　郵稅
金壹圓拾四錢　はがき
金五圓四拾錢　雜費
金七拾圓　三井預金
金貳拾圓　ジェンナー氏紀念會寄附金臨時費

收支差引

一金壹圓五拾壹錢貳厘　殘金

三井銀行預金

一金參百七拾五圓貳拾四錢六厘

二口〆

金參百七拾六圓七拾五錢八厘　現在高

現在會員數

會員總數八百四十四人

內譯

府下終身會員　十六人
地方終身會員　六人
府下特別會員　二十九人
地方特別會員　貳人
府下贊成員　四十八人

地方賛成員　十二人
府下通常會員　五百十二人
地方通常會員　九十四人
千葉支會々員　四十壹人
新潟支會々員　八十四人

寄送雜誌　九十四册

◉入會者

◉藤本まさ子の紹介に依り
第一醫院　木村せい子
仝　井村かつ子
仝　河田まさ子
仝　鈴木ゆう子
仝　金子くら子

◉太田たつ子の紹介に依り
本所萬馬町四番地　吉川のぶ子

◉大井田氏の紹介に依り
横濱十全病院　小泉りう子

◉中野悦子の紹介に依り
新潟縣中蒲原郡酒屋村　嶋津いし子

◉高橋孝子の紹介に依り
京橋區銀座三丁目二十一番地　吉田けん子

◉千種八百子の照會により
日本赤十字社　富山せい子

◉千葉支會へ申込に依り
千葉縣市場町　松田くに子
仝旭町　荻生とみ子
仝旭町　中西つる子
仝新町　立石八重子
仝旭町　中岡美禰子
仝新町　板倉ひこ子
仝横町　柴田ひさ子
仝通町　鈴木みよ子
仝吾妻町　鈴木みつ子
仝旭町　岩崎とし子
仝長州町　松本ゆう子
仝長州町　阿部りう子
仝稻葉町一丁目　鈴木たへ子
仝寒川新田　鈴木とよ子
仝寒川　藤川雅子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉轉居

和歌山縣海草郡和歌村へ　石井文子
牛込區加賀町一丁目七番地へ　志岐千代子
本郷湯島切通坂町十五番地へ　新井琴子
麻布區簞笥町六十四番地へ　淺井梅子
四谷塩町一丁目二十五番地村上方へ　俊野いわ子
芝區高輪車町四十三番地へ　橋口喜代子
新潟縣北魚沼郡小出町へ　大村やす子
神田區駿河臺鈴木町二番地東洋內科醫院內へ　後藤あさ子
麹町下六番町四十五番地へ　福井まさ子
牛込區市ヶ谷佐土原町三丁目九番地へ　島崎とく子
赤坂區新町五丁目三十七番地へ　牧野きよ子
芝公園五號地十番へ　兒玉志那子
芝明船町二十番地へ　岩野幾代子

◉正誤

第八十三號廣告欄中築山から子事務所へ申込みとあるは根岸かな子の誤

◉大日本婦人衛生會會員宿所姓名

（前號の續）

◎本郷第一醫院

木村せい子　井村かつ子
河田まさ子　鈴木ゆう子
金子くら子　梅林寺豊子
長谷川春子　大石こう子
小笠原みつ子　龜山みね子
谷千代子　代とめ子
田中はる子　野口きね子
糸ふみ子　福田はな子
藤本まさ子　杉浦たま子
杉山房子

◎下谷第二醫院

村上れん子　澤もと子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調てい子

◎日本赤十字社病院

岩井千代子　橋本治子　仁東愛子　土田すゑ子　小野はる子　綿谷禮利子　金田孝子　加藤貞子　瀧川はる子　高田屋尾子　村松ふさ子　山口初子　富山せい子　秋元みち子　坂本良子　岸まさ子　鈴木かつ子

服部たき子　萩原竹子　星野よし子　千種八百子　大西千代子　加藤ふみ子　海津里子　立見錠子　高柳てい子　中山春江子　九里登與子　的場光子　松永とし子　在田のふ子　酒井鑄子　鈴木くら子

◎地方通常會員

い ノ 部

横須賀佐野村中一號官舎　石黒よし子
鹿兒嶋縣龍尾町四十六番戸　生駒種子
秋田縣仙北郡生保田村　伊藤てい子
新潟縣北浦原郡新發田東町　市嶋なつ子
神奈川縣三浦郡豊嶋村中里二百十二番地　石田竹子
愛媛縣温泉郡桑原村大字正圓寺　石原鱗子
丹波國何鹿郡吉美村　猪間のえ子
長野縣更級郡信里村駐在所　伊藤繁子

は ノ 部

北海道小樽市入船町八十番地　早川しま子
廣嶋市大手町八丁目三百四十三番地　早川倉子
横濱十全病院　塙とせ子
名古屋西新町十四番戸　早瀬久子

に 部

北海道札幌幼稚園　西川かめ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はノ部

神奈川縣鎌倉小町三百九十三番地　細川靜子
新潟縣中蒲原郡荻野村大字市の瀨　本間よね子

とノ部

廣嶋縣呉港和庄町九百九番屋敷　富田千代子
紀伊國尾鷲町三百六十番地　土井榮子
仝尾鷲町三百五十二番地　土井つるの子
三重縣北牟婁郡尾鷲町字南浦　土井早苗子

をノ部

新潟縣北魚沼郡小出町　大村やす子
横濱十全病院　大内しげ子
大坂西區本田一番町二十六番地　岡田みす子
神戸市中山手通六丁目二十六番邸　小野竹子
新潟縣北蒲原郡仲條町百十四番地　小野芳美子
廣嶋縣鹹町百二十一番地次一番邸　奥山乙女子
長野縣下伊那郡飯田町　小澤愼子
筑前嘉麻郡鯰田炭坑　大木珠子
大坂東區本町一丁目四十番邸　大澤雪子
肥前東彼杵町佐世保字市嶋　小田松子
荏原郡大森村大字立石　太田さか子

神奈川縣小田原新玉町三丁目百九十二番地　長田てう子
宮城縣登米郡石越村大字黒山東郷小野寺　かめ子
仝柴田郡村田町　小原宮路子
福岡縣企救郡小倉魚町壹丁目二十番地　丘邑喜代子

わノ部

京都西ノ洞院通下立賣下ル東裏辻町六番戸　子爵夫人　渡邊千施子
横濱元濱一丁目一番地　渡邊玉子
神戸山本通五丁目七十九番地　和久山きと子
北海道函館會所町二十番地　渡邊なつ子
埼玉縣北葛飾郡櫻田村字八甫　渡邊うら子

かノ部

千葉縣千葉町千十四番地　河村孝子
佐賀縣尋常師範學校　川崎ゆう子
山梨縣東八代郡石和仲町三百九番地　鹿兒島さく子
群馬縣桐生町二丁目二百六十六番地　加藤とら子
山口縣赤間關新地町二十一番屋敷　勝田久米子
栃木縣那須郡烏山町　川俣はる子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

相州横須賀中里二百九番地　加茂東美子

よノ部

長崎縣南松浦郡福江村五百三十四番戸　吉富しも子
長野縣東筑摩郡島立村百八十五番地　横内いわ子
群馬縣山田郡桐生町六丁目　吉田和歌子
新潟縣北蒲原郡新發田御徒町　吉田喜代子

たノ部

山口縣赤間關町西橋　多田ませ子
北海道函館會所町五十一番地　田澤みつ子
神奈川縣東浦賀町七十番地大ヶ谷　田尻知子
新潟縣南蒲原郡三條町二ノ町　竹中もと子
仝西蒲原郡卷町　高橋きく子
和歌山縣伊都郡橋本町四十三番鈴木茂三方　立石靜子

つノ部

大坂東成郡清堀村番外三百二十番地　椿たか子

なノ部

千葉縣長狹郡吉尾村北風原九百一番地　永井くに子
横濱伊勢町二丁目十八番地　中野すが子

栃木縣河内郡宇都宮高𫞎町四十番地　中山きく子
神奈川縣三浦郡豊島村中里稲荷谷戸百四十二番地　中溝辰子
南豊島郡澁谷村字堀ノ内　長森ひて子

うノ部

伊勢國四日市高砂町四十八番地　植村千代子
相州長浦官舎甲第二十三號　内田芳子
呉港和庄町四百七十七番屋敷　宇敷數子

のノ部

高知縣高知市本町筋三丁目　野並三種子
岡山縣兒島郡味野村六十八番邸　野崎陸子

くノ部

愛媛縣名古屋堅三ッ藏町八十番戸　熊谷雪子

やノ部

安房國長狹郡鴨川町前原十三番地第二號　安田孝子
新潟縣古志郡長岡坂上町四十七番地　山田能文子

まノ部

筑前鞍手郡新入炭坑　松田すえ子
秋田縣秋田市中龜の町七番地　松下てい子

神戸山本通五丁目七十九番地　前川てる子
新潟縣北蒲原郡濁川村　眞島むす子

ふノ部

熊本縣天草郡山口村　古荘とめ子
北海道函館舟見町五十八番地　深瀬たか子
仝函館會所町五十一番地　藤野とく子
仝函館惠比須町七番地　藤野くら子

こノ部

新潟縣中蒲原郡横腰村　小野かく子

あノ部

福島縣福島町南裏三丁目八番地　荒川楳子
横濱北仲町　朝山豊子
岩城國信夫郡福島町二丁目七十四番地　阿部こと子

さノ部

北海道札幌北三條西四丁目甲八號　酒勾治子
伊豫國松山市北京町四十五番戸　佐藤すみ子

きノ部

北海道函館汐見町十九番地　北代孝子

ゆノ部

廣島縣和庄町二百八十六番屋敷　湯地照子

みノ部

新潟縣南蒲原郡加茂町　皆川きみ子

しノ部

新潟縣中蒲原郡酒屋村　島津いし子
仝北蒲原郡米倉村　下妻いせ子
熊本縣新屋敷町三百七十三番地　紫藤のふ子
新潟縣北蒲原郡金塚村大字金子　白勢つて子

ひノ部

水戸市櫻町七番地　秀嶋千代子

もノ部

新潟縣新發田本村片田町五百二十四番地　守住乃婦子
富山市星井町九十七番地　森こと子

すノ部

鹿兒島縣清水馬場町四十二番地本田方　末川とし子
伊勢國一志郡豊地村字下之庄　杉原せい子

◎地方終身會員

山形縣西村山郡新宿村　今井政乃子
神奈川縣大綱山　高島くら子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

大坂三軒屋町紡績會社前　山邊さだ子
愛知縣春日井郡小田井村　松澤たつ子
大坂控訴院　北畠三枝子
岩城國信夫郡福嶋町大字曾根田　油井あか子

◎地方特別會員

京都上京寺町通廣小路上ル　村岡久野子
筑前鞍手郡勝野炭坑　安達芳子

◎地方賛成員

新潟縣中蒲原郡大淵村大字西野　伊藤房吉君
仝中蒲原郡一本木村　原正君
秋田縣羽後國平鹿郡横手町大町上町　富田新助君
伊勢國津市北堀端　中里格助君
石川縣金澤市石坂與刀郡三十二番地　中村順次君
岐阜縣美濃國本巣郡長嶺村　村瀬清直君
三重縣伊勢國尋常中學校　梅村甚太郎君
仝伊勢國津市西町卅三番地　野口安次君
備中國淺口郡船越村　山川春二君
三重縣伊勢國立町　山内養順君

新潟縣中蒲原郡沼垂町　八木三七君
北豊嶋郡中新井村杉山方　布施正顋君
三重縣伊勢國津市玉置町　朝川順三君
相州厚木町　齋藤正兵衛君

◎千葉支會々員

會長　阿部りう子　評議員　太田てう子
副會長　渡邊たつ子　仝　梅若もと子
幹事　田中まさを子　仝　板倉ひこ子
仝　河村こう子　仝　紅谷ねつ子
仝　中岡美子　仝　市村まさ子
仝　峯島てい子　仝　松本るし子
仝　鈴木たい子　仝　三村さく子
仝　宮川しう子　仝　影山もと子
仝　高梨みつ子　仝　飛田てる子
評議員　鈴木みよ子　仝　越智ゆき子
仝　長尾ねん子　仝　立石八重子

千葉縣千葉町	石橋てつ子
仝	稻垣ふさ子
京都上京東裏辻町	一坂さと子
仝旭町	入野とよ子
仝旭町	飛田てる子
千葉縣原郡今富村	千葉みつ子
仝	大多和もよ子
仝千葉町	太田てる子
仝千葉市塲町	松本るし子
仝長洲町	河村こう子
仝旭町	若森よね子
仝千葉町	渡邊ふで子
仝武射郡豊田村山室	土屋さく子
仝旭町	渡邊しづ子
仝旭町	田中まさ子
仝千葉町	長尾ゑん子
仝市塲町	永嶋ちよ子
仝	牛尾たつ子
仝五妻町	紅谷ゑつ子
仝旭町	峰島てい子
仝	大野くめ子
仝	梅若もと子
仝	市村まさ子
仝旭町	越智雪子
千葉縣千葉町	淺井けふ子
仝印幡郡彌宮村	粟飯原ふゆ子
仝印幡郡佐倉町	佐藤はつ子
仝	三好のふ子
仝千葉町	三輪よし子
仝千葉町	三村ひさ子
仝千葉町	宮地よし子
仝長洲町	宮田はな子
仝香取郡古城村萬力	清水いせ子
仝東葛飾郡浦安村	杉本まさ子
仝市塲町	松田くに子
仝旭町	狹生とみ子
仝旭町	中西つる子
仝新町	立石八重子
仝旭町	中岡美禰子
仝新町	板倉ひこ子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

仝横町　柴田ひさ子
仝通町　鈴木みよ子
仝吾妻町　鈴木みつ子
仝旭町　岩崎とし子
仝長州町　松本ゆう子
仝長州町　阿部りう子
仝稲葉町一丁目　鈴木たへ子
仝寒川新田　鈴木とよ子
仝寒川　藤川雅子
仝通新町　宮川よし子
仝千葉師範學校女子部　岩上りう子

◎千葉支會賛成員

千葉北辰病院長　飛田良吉君
仝監獄醫長　森理記君
第一高等學校教授兼千葉病院眼科醫長　荻生錄造君
仝小學校長　原庫治君
仝縣辯護士　太田茂君
加藤國松君
阿部浩君
市村敏印君
松本郁郎君
影山昇君
石井晋一君
三村寳君

◎新潟支會々員

新潟市營所通リ　會長　杉本加納子
仝平營所通リ　副會長　淺田みね子
仝市礎町通リ　幹事　淺田とみ子
仝學校町通リ二番町百五十八番戸　幹事　大島織兄子
新潟市醫學町　石原さゑ子
仝市旭町一番町二番戸　石原さか子
仝寄居町四十五番戸　池原きん子
仝市上旭町一番町三十番戸　岩淵せい子
仝市本町通十番町　岩田むつ子
仝市西堀通七番町　今港正子
仝市西堀通仝町　長谷川順子
仝市一番町百六十五番戸　濱野なを子
仝市營所通り　西田うめ子
仝市旭町通一番町十六番戸　保倉せい子

廣告

仝一番町字南山	北條きく子
仝學校町通二番町	鳥居操子
仝旭町一番町字宮浦五十七番戸	時任しづ子
仝上大川前通十番町	富岡つわ子
仝一番町二番戸	大和田かつ子
仝上大川前通九番町	小川とり子
仝學校町通壹番町二十五番戸	渡邊千代子
仝上旭町一番町	渡邊すが子
仝學校町通二番町	和辻けい子
仝上大川前通七番町	若杉きく子
仝學校町二番町百五十八番戸	鍵富孝子
仝上大川前通一番町十九番戸	鍵富とき子
仝上大川前通一番町十七番戸	鍵富せつ子
仝醫學町一番町五十六番戸	神尾つや子
仝西大畑通二番町阿部方	河合小美子
仝西堀通四番町	川俣やす子
仝古町通六番町八番戸久之濟方	横内美都子
仝二番町三十九番戸	高橋なみ子
仝新潟縣尋常師範學校	高田せん子
仝上大川前通六番町	竹山れつ子
仝大畑通	高橋さだ子
仝寄居町四十六番戸	高橋たゝ子
仝本町通十二番町	田代てふ子
仝本町通八番町	田邊りん子
仝上旭町	鶴田うめ子
仝上旭町通一番町四十六番戸	中野悦子
仝上大川前町七番町	中山とう子
仝西堀通九番町	中村きん子
仝本町通十三番町三十三番戸	中村しげ子
仝東横堀通	内田さと子
仝本町通十番町	能勢ます子
仝西堀通五番町	工藤せい子
仝一番町四十二番戸	安原あみ子
仝尋常師範學校	安田とめじ子
仝學校町二番町	安田小鹿子
仝旭町一番町二番戸	槇なみ子
仝學校町通二番町二百五十五番戸	丸山のふ子
仝尋常師範學校	町田こと子
仝東堀前通五番戸	松尾むす子
仝上大川前通十番町	藤田りた子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仝旭町通一番町南山　小柴菊子
仝東仲通二番町一番戸　古閑初瀬子
仝古町通七番町　小出やい子
仝上大川通七番町六十三番戸　小山せい子
仝古町通六番町二十三番戸　荒川てい子
仝一番町四十六番戸　安達よし子
仝上大川前通六番戸　青山つね子
仝旭町一番町二番戸　澤田とも子
仝學校町通二番戸　坂本いら子
仝大畑通　坂口あさ子
仝裏通一番町十三番戸笹川方　佐藤ます子
仝寺裏町一番町十三番戸　笹川みす子
仝礎町通二ノ町　南むね子
仝一番町十八番町　水谷繁子
仝一本町通八番町　白勢はな子
仝礎町通六ノ町　清水くり子
仝旭町通一番町二十四番地　平井こと子
仝一番町三十九番戸　森うん子
仝産婆養成所　關根れん子

仝一番町百六十五番戸　關口げん子
仝學校町通二番町七十九番戸　鈴木ちか子
仝學校町通二番町七十九番戸　鈴木きよ子

◎新潟支會賛成員

仝寄居町　池原康造君
仝西堀町七番町　長谷川寛治君
仝新潟病院　長谷川詮君
仝學校町　和辻春次君
仝大川前町七番町　若松喜三郎君
仝西堀通四番町　川俣四男也君
仝本町通十三番町　田代亮介君
仝高橋病院　高橋辰五郎君
仝西堀町八番町　中村勇三郎君
仝學校町　山本敬太郎君
仝礎町通り　淺田決君

大日本私立婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉全國赤痢（內務省衞生局調）

縣名	初發より九月三十日まで 患者	初發より九月三十日まで 死亡	九月十六日より仝二十日まで 患者	九月十六日より仝二十日まで 死亡
東京	八九八	二八一	一九	九
京都	七一〇	一八一	四七	一七
大坂	二、〇一九	二五二	二三	九
神奈川	一、一三一	一八三	一五	五
兵庫	一、四二四	三一六	九五	二四
長崎	四四四	六二	八	三
新潟	二、七七三	三六五	一六二	四五
埼玉	二、〇〇二	四四五	三六	三三
千葉	五九四	一一六	四二	一〇
茨城	四六	一三	四	二
群馬	八、五八一	一、五六四	三九	三四
栃木	六〇七	一二五	一〇	四
奈良	四一〇	九七	一二	六
三重	九七五	二一三	一二三	三四
愛知	二、五二一	五八五	八二	四二
靜岡	一、八七一	四九〇	三三	三
山梨	四七三	一四	二五	八
滋賀	一、〇〇九	二三〇	五二	二九
岐阜	二、八五二	五六二	二五四	七二
長野	四、一八八	七九五	一一三	四三
宮城	九一六	二一七	五二	一九
福嶋	一八	四	六〇	一七
岩手	四七六	八五	一三九	一五
靑森	一七七	一四	一九	八
山形	三九〇	六七	一四四	一四八
秋田	六四九	一〇〇	一七	一〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

縣名	患者	死亡	患者	死亡
福井	六八八	二三	二九	二六
石川	九〇五	二三八	二	三
富山	二七七	九七	一六	四
鳥取	四八五	一〇七	一九六	六〇
嶋根	三、五八三	八九九	六三	三
岡山	一、八五八	五一六	八三	三
廣島	二、八四九	九〇〇	五四	三
山口	一、一四四	三三三	二四	一〇
和歌山	六七五	一六五	二〇	二
德島	一、一六〇	四五二	八三	四〇
香川	二、三三七	六七八	四三	一五
愛媛	一、六五五	四三三	二七	一五
高知	一、二四八	二二二	〇	〇
福岡	一、三三三	二三九	四〇	二
大分	六五五	一五四	〇	〇
佐賀	一〇六	二五	二	三
熊本	一、一四七	一九九	一〇	三
宮崎	五九四	一〇九	〇	〇
鹿兒島	一、五九五	三八七	〇	〇
沖繩	六八	一八	〇	〇
合計	六一、一九九	一三、七〇〇	二、三三四	九〇六

明治廿九年十一月五日印刷
明治廿九年十一月六日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中徳三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行
（定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN